The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	特集「利他」を考える
Author(s)	渥美, 公秀; 稲場, 圭信
Citation	未来共生学. 2015, 2, p. 10-12
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/51800
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

特集

「利他」を考える

特集｜「利他」を考える

未来共生イノベーター博士課程プログラムの構想段階から検討されてきた未来共生の基本概念は、『未来共生学』第1号にその成果として掲載された。中でも、A+B→A'+B'+α（A、Bは相異なる集団、A'、B'はより良い状態に変化したA、B、αは、新しく生みだされた価値）というモデルで示される「創造的共生と社会的包摂」の概念は、いわば未来共生の公理として確立されたと言ってよい。しかし、モデルに含まれる演算子に関する議論は、まだ十分に行われているとは言えない。もちろん、演算子は、集団Aと集団Bが単に同じ空間に存在することを示しているわけではなく、両集団に何らかの交流が生じることを意味している。しかし、どのような交流が想定され得るか（されるべきか）ということについては、まだ十分に議論の余地がある。そこで、『未来共生学』第2号では、演算子が暗黙のうちに想定していると直感される行動として利他行動に注目した特集を企画した。利他行動を「自己の利益を犠牲にして他の利益のために行う行動」といった標準的な定義そのものを問い直す原理的な議論から、利他的な行動を惹起するための技法の開発といった実践的な議論まで幅広い論考を収録し、未来共生の公理における演算子に関する議論を深める一助としたい。

特集は、『未来共生学』第1号で提示された「共生のアスペクト」に沿って構成した。まず、「利他行動のフィロソフィー」として、利他行動とは何か、何のために利他行動を求めるのか、現代社会の誰と誰の利他行動なのか、望ましい利他行動とは何かといった問いに応じる論考、「宗教的利他主義」（稲場圭信）、「法学における『利他』の位置づけ」（福井康太）、「利他主義と共生に関する哲学的分析」（中山康雄）を収録した。

次に、「利他行動のサイエンス」として、利他行動の状況を俯瞰的・体系的に討究し、利他行動の諸要因布置連関を記述・説明する論考、「霊長類における毛づくろいと利他行動」（山田一憲）、「向社会的行動に関す

る比較発達心理学的検討」(清水(加藤)真由子)、「『利他』への計量社会学的アプローチ」(三谷はるよ)を収録した。

最後に、「利他行動のアート（技術）」として、利他行動にまつわる諸問題の解決へと誘う具体的な手法・技の開発を志向する論考として、「未来の他者への返礼――被災地のリレーによる未来との共生」(渥美公秀)、「利他としての無為――共約不可能な他者とのかかわりに関する原理的考察」(岡部美香)を収録した。

なお、本特集では、未来共生イノベーター博士課程プログラムの担当教員に加え、大阪大学大学院人間科学研究科ヒューマンサイエンスプロジェクト「利他主義の人間科学の創生に向けて」の構成メンバーが参画して、諸分野が展開・蓄積してきた学術的・実践的知見を「利他主義」というキーワードのもとに集積し、総合的に考察・検討した。

多様な分野の多様な視点から利他行動について論じた本特集が、未来共生の公理にかかわる議論を公共のアリーナに開いていく一助になることを願っている。

2015年1月23日

特集担当　**渥美公秀・稲場圭信**

執筆者は以下の通り(★は、未来共生プログラム担当者)。

「利他行動のフィロソフィー」

★稲場圭信(人間科学研究科、宗教社会学)

★福井康太(法学研究科、法社会学)

中山康雄(人間科学研究科、科学哲学)

「利他行動のサイエンス」

山田一憲(人間科学研究科、比較行動学)

清水(加藤)真由子(人間科学研究科、比較発達行動学)

三谷はるよ(人間科学研究科、経験社会学)

「利他行動のアート」

★渥美公秀(人間科学研究科、グループ・ダイナミックス)

岡部美香(人間科学研究科、教育人間学)